

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

# Stay Smile



ステイ・スマイル

## Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

### 「知っているよ」から「理解しているよ」へ

カエルを捕まえようと追いかける子どもたち。今の時期、同じ種類のカエルでもきれいなエメラルドグリーンのものもいれば、土色のものもいます。中には体の半分がグリーンで半分が土色という面白いのもいます。その理由を、毎日毎日カエルを追いかけている子どもたちはよく知っています。図鑑で見ているだけではなく、実際に一年通じて自然の中で過ごし、四季の自然変化を体で感じて体験していると、なんで？が次から次へと生まれてきて、観察したり大人に聴いたり本で確かめたり、また偶然発見したり、自分なりにその答えを求めながら遊んでいます。確かなことは、カエルの種類名はしらなくても、カエルがどんな風に生きているかは知っています。まさに、生きているカエルについて理解をしているということです。幼児期は、いろんなものをこんなふうに認知していくことがふさわしいのです。知識から入るのではなく、体験から入るということです。すべてのものに理由があることを経験することが、本質の理解につながります。経験から物事の本質に触れる体験をたくさんした子どもは、就学して、学習を通じて自分の体験と知識が一体化することが楽しく、学習意欲につながります。

このことを子育てのスタンスで考えると、私たち大人も子どもたちに接するとき、

既にある、この年齢の子どもはこんなふうにできるはず、という一般的な知識のフィルターだけで子どもを見るのではなく、その子の表情や動き、生活環境などを観察しつつ、理由を探ってあげることが大切に思います。子どもの側に立って考える視点を持ちながら寄り添い、ふれ合い関わり合うことからしか見えてこない、子どもの言動の理由があります。私たちは、いろんな場面で出会う子どもたちとの関係を、「知っているよ」から少しでも「理解しているよ」に近づくために、子どもたちとの日常的な継続的な関わりを大切にした活動をしています。



## Stay Smile 目標や課題を明確に。そこへ向かって頑張ります!

町新規就農支援事業

### ◆佐藤映志さん（富原）

家族は妻と子供2人で富原在住、出身は広島県で登山に魅せられ長野県にやってきました。

独立4年目、法人研修を含めると農業を始めて7年目のシーズンを迎えてます。いろいろな方に良くして頂き、アクシデントもありましたが、順調に経営出来ております。ありがとうございます。

業務内容は研修したブロックドリームを中心に、スイートコーン、ほうれん草などJA出荷。カゴメのジュース用野菜の生産や富士見工場の見学用圃場の管理の仕事。直売所や富士見高原リゾートのレストランなどへの野菜出荷など経営面積も年々増え今年度は約6haを予定しています。

今後の課題は生産性の向上と安定雇用、冬の収入確保のため、今年度よりアスパラガスの伏せこみ栽培の試験を始めます。

この地域は農業との関わり合いが深く、地域の農業が活性化することは地域が活性化することと同義だと思います。これからそれを担うのは我々若手農業者、強いやりがいを感じ、農業を始めてよかったですと心の底より思います。

私の目標はこの地域に必要とされ、地域の一部として機能する法人を残すことです。まだまだ未熟者で皆さんの助けが必要です。今後ともよろしくお願いします。



# Stay Smile “切り合う”住居址を探せ! ~土器でわかる“時代”

昭和33年の井戸尻遺跡の発掘をきっかけに、富士見町域ではいくつかの遺跡が発掘されました。そこにかかわった人々を振り返りながら紹介します。

井戸尻考古館 ☎64-2044

## 九兵衛尾根遺跡②(昭和34年~)

遺跡の発掘調査をしていると、何軒もの家が重なって見つかることがあります、もちろん同時に建てられていたのではありません。どちらかが古いはずですし、その間には数百年・数千年の差があることだってあるのです。

いっぽう土器は、文様の違いを利用して、時代を特定する“ものさし”にすることができます。これを土器編年といいますが「文様が違う」ことがわかつても、「どちらが古いか」がわからなければ、時代をはかることはできません。

九兵衛尾根遺跡の発掘の中で武藤雄六さんは、新しい住居が古い住居を埋めるか、逆に切り抜いてつくられていることに気づきました。「これで新旧がわかる!」指導していた宮坂英式さんに意見しては退けられ、幾度か食い下がってようやく認められたその時のことを、藤森栄一さんはこう書き残しています。「私も病床でこの話を聞いた。けれど、そういうふうにうまくいくかなー」と笑った。

予想に反し、それはうまくいきました。この富士見の地を舞台に切り合う住居址を探して丁寧に発掘することで、特徴的な土器の新旧を明らかにし、新しい“ものさし”が誕生しました。こうしてできた縄文中期の土器の“ものさし”は井戸尻編年とよばれ、縄文時代の研究に大きな影響を与えました。

参考：『考古学とともに』藤森栄一



▲切り合う住居址(1972年)



▲古い土器・新しい土器

# Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

## 富士見町子ども読書活動推進計画(第2次) ~今回は幼児期と保育園の活動のご紹介をします。~

幼児期(3歳~6歳)の推進計画は次のとおりです。

- ①絵本の読み聞かせをしよう
- ②おはなし会へ行こう
- ③わらべ歌、手あそびを楽しもう
- ④ことば遊び(しりとり、なぞなぞ、かるた等)を楽しもう

※③・④については読み聞かせ講座なども開催しています。読み聞かせの大切さの紹介、読む本の紹介、読み聞かせの方法の紹介、実際にその場で読み聞かせをしたこともあります。1時間半~2時間程度の内容で学びます。小さなお子様を持つ父母、祖父母、読み聞かせに興味のある方などが参加されました。今年度の実施計画についての詳細は町図書館へお問い合わせください。



▲子ども読書読み聞かせ講座の様子



富士見保育園は年間に何度か図書館へ来館、おはなしの部屋にて読み聞かせをしています。平成26年度は西山保育園でも出前おはなし会をひらきました。

### 【保育園の活動】

\*毎日の読み聞かせ \*お薦め本絵本コーナー作り \*家庭への絵本の貸し出し

各園の活動はさまざまです。それぞれの園で子どもたちの育ちを願い、それぞれの発達段階に応じた豊かな楽しい読書体験を積み重ねられるような環境づくりをしています。

次月からいよいよ町内の各保育園の子ども読書活動についてご紹介していきます。